

## FUKUUZU タイムス VOL.2

2022 年度 1 次隊

派遣国:ウズベキスタン

職種:ラグビー

氏名:森谷理央



### ●近況報告

皆さんこんにちは。早いもので此方に赴任して早くも半年が過ぎようとしています。ウズベキスタンも日本と同じように四季があるので、現在は冬の季節です。タシケントの緯度は北海道の函館と同じくらいと聞いていたので、寒そうだなあ、と個人的に心配していたのですが、雪は滅多に降らず、気温も氷点下 10 度を下回ることは珍しいとのことでした。

しかし、今年は大寒波がカザフスタンから押し寄せ、年明けからタシケントは、最低気温 - 20 度以下、最高気温 - 10 度以下という日が続きました。この原稿を執筆している現在では、寒さが大分和らぎ、最低気温は - 10 度ほどまで上昇しましたが、寒波の影響で、電気、ガス、水道等の逼迫、故障が相次ぎ、現在も復旧していない地域がまだまだあります。

その上、タシケント市長とエネルギー省の副大臣が更迭され、インフラの復旧には時間を要する見込みです。また、寒さと雪の影響で、学校等の教育施設の設備も故障し、新学期開始の時期が未定の為、学生さん達も非常に混乱しています。私の配属先のラグビーチームの大学生も、実家からタシケントへ戻ってきたものの、大学がいつから始まるのか分からないので、再帰省するとのことでした。

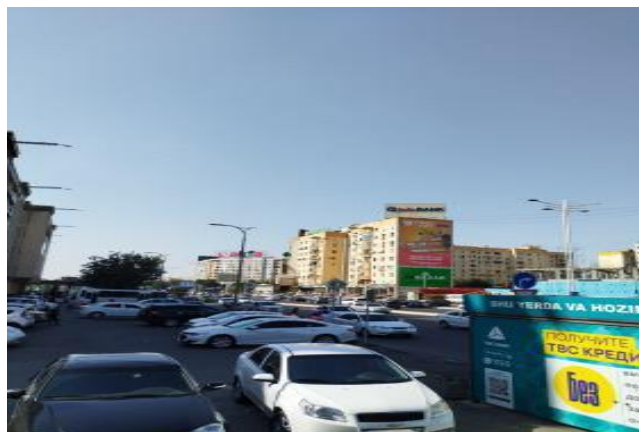
### ●首都タシケント

前置きが長くなりました。ここからは、私の生活するタシケントの様子を紹介したいと思います。

タシケントは人口 240 万人の中央アジア最大の都市で、旧ソ連時代には、モスクワ、サンクトペテルブルク、ウクライナのキーウに次ぐ第四の都市でした。その為、市内はシルクロードを連想させるような街並みとはほど遠く、近代的なビルや、旧ソ連時代のアパート等が軒を連ねています。また、旧ソ時代に敷設された地下鉄が三路線走っている他、バスも多く、交通の便は悪くありません。因みに、この地下鉄が敷設されたのは、東西冷戦時代ということもあり、核戦争に備えたシェルターという役割もあったそうです。その為、駅構内は携帯の電波があまり届きません。

旅行のガイドブックなどには、「旧ソ連色の濃い無機質な街」と書かれていたりしますが、個人的にはタシケントはロシア、イスラム、中央アジアの各文化が混在した興味深い街であると感じています。

確かに、市内中心部は、昨今の開発ラッシュの為、近代的なビルが多く見受けられますが、中心部から二キロ程足を延ばせば、土壁やレンガづくりの伝統家屋や寺院



中心部には近代的なビルが建ち並ぶ。写真 1

が多くある迷路のような旧市街へ行き当たります。行き交う人々の服装も流行りの服装というよりは、ヒジャブやマント等、伝統的且つ宗教色の強い服装が目立ちます。また、下の写真のようなモスクも、

旧市街には多く見られ、週末には多くの信者が訪れます。

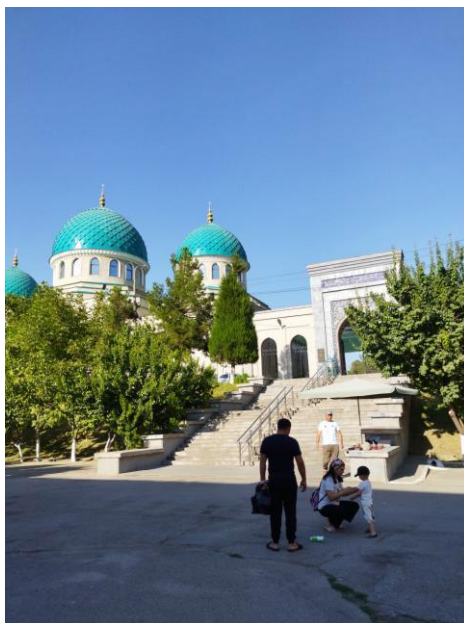
また、個人的に写真5は、偶然撮ったものですが、タシケントを象徴する写真ではないかと個人的に思っております。

見えにくいかも知れませんが手前に旧ソ建築のマンションが観え、その手前にヒジャブを被った女性が映った看板がえます。こういったイスラム文化と旧ソ文化の融合がタシケントの随所で観ることができます。

タシケントの特徴を書くと切りがないのですが、実は市内にはコリアタウンも存在します。韓国とウズベキスタンは経済的に結びつきが強く、韓国からの駐在員や留学生の方が多く住んでいます。その為、市内中心部の Oybek には、韓国レストランや韓国食材店が多くあるのです。この地域では、ムスリムの方が多い国では決して見ることのない豚肉も買うことができます。こちらも機会があれば、後日ご紹介したいと思えます。

因みに、一帯一路政策の為か、市内には中国の方も多くいて、中華レストランも多くあります。この他、インド料理屋やマレーシア料理、トルコ料理、ギリシャ料理、イラン料理等のレストランがあり、タシケントはまさに食の宝庫であると言えます。

それでは次号もお楽しみに。Увидимся.  
Yana ko'rishguncha.



市内の目抜き通りである「ブロードウェイ」写真3



偶然、CMの撮影現場に出会う。写真4



奥に旧ソ連時代に建築されたであろうマンション、手前に看板が見える。写真5